

であるといってもよいでしょう。まず基本文字ですが、サ行は  $\int \rightarrow \int$ 、タ行は  $\int \rightarrow \int$  と改めています。そして、イ列の2倍をエ列、ア列の2倍をオ列、ウ列は、ク、ル、ムが田鎖式のままであり、ス、ツ、フ、ユに新しい符号を入れています。

現在、折衷派のほとんどの方式がウ列とア行を除いて熊崎式の基本文字を取り入れております。

明治40年には丹羽式が発表されております。丹羽式も複画派としては少し変わった基本文字を採用しております。

明治43年に発表をされた日下部案は縦書きのカナ速記です。

大正に入り、元年に荒浪式が発表されました。荒浪式は複画派方式として広く普及をした方式です。昭和32年にも荒浪式の本が発行されております。

大正3年には中根式が発表されました。武田式は1人の実務者を輩出しただけで終わりましたが、中根式は再び単画派として登場して今日に至っております。

中根式のことを説明すると、非常に長くなるので簡単に説明します。

**編集長** 対談の1回分ぐらいになりますか。

**管理人** 1回で終わるかどうかは、保証ができませんね。

中根式は熊崎式以来の画期的な方式の出現です。当時は、複画派の田鎖系と折衷派の熊崎式が広く普及していました。中根式は単画派として初めて広く普及した方式です。中根式を創案したのは中根正親（まさちか）であり、研究・大成をしたのは実弟の正世（昭和31年に正雄と改名）です。

中根正世は全国の中等学校を中心に中根式の普及に努力したので、当時の中学校（現在の高等学校）に広く普及しております。

大正6年には森山式、大正8年には新森山式、大正9年には生稲案、毛利式、大正10年には大川式、大正11年には桜井式、大正13年には新熊崎式、大正14年には北村式、新北村式が発表されました。

森山式は野崎式、熊崎式の系統ですが、独特の基本文字です。

生稲案は田鎖式の系統であり、基本文字には余り変化がありません。

毛利式はドイツのファウルマン式（Faulmann・1875）を研究したものであり、日本では珍しい草書派の方式です。実用化された方式です。

大川式は武田式の濃線を採用しており、加点文字を廃止しているが純単画派をねらったものであり、濃線が残っております。


北村式は中根式の系統であり多曲線を使用していますが、まだ濃線が残っております。

新熊崎式（牧）は、熊崎式を改良したものですが、熊崎式の  $\int$  は  $\int$  小円を取って  $\int$  としております。

昭和に入ると、雨後のタケノコのように多くの方式が発表されました。昭和2年か

ら8年までの7年間は非常に方式数が多い時代です。方式名のみを書くと、昭和2年には超熊崎（牧）式、新熊崎（森沢）式、新丹羽式、昭和3年には新大川式、松山式、昭和4年には鬼塚案、梶案（日本速記学会案）、菅原案、四年式（高橋式）、昭和5年には岩村式、デーゲン式、森田式（モリタ式ともいう）、早稲田式、昭和6年には川守田式、国字式、大場案、超中根式、日本速記学会案、昭和7年には浅田式、植松案、宇佐美式、静香式、田鎖51年式、昭和8年には加藤式、酒井式などがあります。

超熊崎式は、新熊崎式を改良したものであり、ウ列は全部単画化されております。別名・牧式とも言います。

新熊崎式には牧泰之輔のものと森沢諄行のものがあります。森沢の方は、フを使用しています。法則的には熊崎式よりも改良されております。

新丹羽式は、直線を廃止して（ア行を除く）曲線ばかりで基本文字を構成していません。

松山式は熊崎式を改良した方式ですが、中根式に触発され、単画派の方式を研究したものです。

菅原式は基本文字には普通のカタカナを使い、省略法に田鎖系の略字まで入っております。この方式は専門速記者用のものではなく、筆記難に苦しむ学生のために考案された方式です。

岩村式はカナ速記としては広く普及をした方式です。

デーゲン式（Degen）はドイツのシュトルツェ・シュレー式（Stolze-schrey・1897）を日本語に応用した草書派の方式であり実用化されませんでした。

早稲田式は川口渉が早稲田大学速記研究会在学中に研究されたものであり、基本文字は熊崎式のウ列とア行を除いたほかは変わりはありません。早稲田式の系統については、熊崎式の系統という説と、各方式からの研究という説があります。

現在の早稲田式は折衷派ですが、編集長さんは「単画記音式早稲田速記法」があることを知っていますか。

**編集長** 早稲田速記講座に書かれておりましたね。

**管理人** 早稲田式の人でも、単画・早稲田式があったことを知らない人が多いんですよ。

**編集長** 早稲田速記講座には、速記史のところでは簡単な記述ですからね。

**管理人** ほとんどの人は、速記史を読んでいないか、読んでも見落としていると思います。

単画・早稲田式は大嶋茸次（後に畑中と改姓）が考案したものです。

カ・キ・コ・ナ・ニ・マ・ミ・モは中根式と同形です。またア・イ・ウ・エ・オ・カ・コ・ハ・ホ・マ・モ・ヤ・ヨ・ラ・ロは現在の早稲田式と同じです。ワは濃線を淡線にしました。

「早稲田速記五十年史」には、この単画・早稲田式の基本文字が掲載されております。

昭和8年4月に発行された「早稲田式初歩の速記学」は、単画・早稲田式の本です。早稲田式では上段に「私」をチャの正規で書きますし、下段に「しかし」をチャと書いておりますが、これは単画・早稲田式の「シ」なんです。

さて、本題に戻ります。

川守田式は、若林式の系統ですが、若林式の面影がなくなっております。

国字式の創案者・古久保峯吉は中根正世の高弟ですが、中根式の根本的な改良を行いました。そうして多曲線を使って純単画派を目指しました。国字式という名称は、速記を国字にしたいという気持ちがあり、古久保自身も国字常弘と名乗っております。国字式は紀元節（現在の建国記念日）の日を選んで2月11日を発表日としました。

大場案はドイツのクノウスキー式（Kunowski）を日本語に応用した草書派です。

超中根式は中根正親の高弟・森卓明（たくみょう）の研究であり、基本文字は中根式と同じものですが、中根式を基礎にして、さらにその上に中根式の表音速記法として、不備な訓読転化を全廃して和語縮記法、外国語縮記法を創定し、中根式を発展させました。

田鎖51年式は田鎖綱紀の長男・田鎖一（はじめ）によって研究されたもので、基本文字も単画派に近い折衷派です。51年というのは田鎖綱紀が田鎖式を発表してから51年目ということですので。つまり速記の紀元をつけております。

酒井式はアメリカのグレッグ式（Gregg・1888）を研究した方式です。

昭和9年には土田式が発表されました。土田利雄は衆議院に中根式の速記者として勤務しており、研究も一段落したので土田式を発表しました。

昭和10年には松崎式、宅間式が発表されました。松崎式は複画派を改良した方式であり、宅間式はグレッグ式を研究した方式です。

昭和11年には宮本式、昭和12年には日本グレッグ式、新松崎式、昭和13年には安田式があります。



安田式は貴族院速記練習所で指導されていた方式です。

昭和14年には衆議院式があります。大正7年に衆議院速記者養成所を開所してから指導教官がかわるごとに田鎖系の符号もかわっていました。そこで教官がかわっても、符号だけはそのまま研究して使えるものを指導することになりました。このころは石川隆一が指導に当たっていましたが、西来路秀男が研究した折衷派の符号を指導していました。

昭和17年からは衆議院速記者養成所所長・西来路秀男が研究していた標準符号を指導することになりました。

昭和15年には泉式が発表されました。泉式は全音速記です。

**編集長** 全音速記とはどういうものですか。

**管理人** 日本語にある濁音の場合、従来方式では清音に点を打ったり、濃線にしたりしますが、泉式では清音符号と濁音符号は別の符号を設けています。カ→、ガ→ というようなものです。

昭和16年には神原案、田鎖60年式、武部式、昭和17年には先の衆議院標準式があり

ます。

昭和17～18年の寿光式は国字式とは基本文字は同じですが、省略法は天段、上段、中段、下段、地段というように縦・横の5段を使用しています。

**編集長** 縦・横の5段ですか。天段は上段の上を書くんですか。

**管理人** 原文帳の左端から書く位置のことです。つまり、左端から20ミリと30ミリの2カ所に縦の折り目を2本つけます。この2本の線を基準にして第1字目の書き始めの段位になります。

左端から20ミリのところが上段、30ミリのところが下段になります。この2カ所が基本になり、5ミリ手前、5ミリ後ろとなります。

左端から15ミリが天段、20ミリが上段、25ミリが中段、30ミリが下段、35ミリが地段になります。

「サ」の字を例を挙げますと、天段＝サン、上段＝シャ、中段＝サ、下段＝サル、地段＝サーとなります。

天段＝撥音、上段＝拗音、下段＝ラ行、地段＝長音です。

字末の場合は、天段＝字末より高く、上30度。上段＝字末と水平。中段＝字末に続ける。下段＝字末より右下、下45度。地段＝字末の直下です。中段以外は、いずれも空間が2から3ミリです。

**編集長** 何か難しそうですね。

**管理人** 私が、昭和44年3月28日に寿光式の通信教育を受講して挫折したのがここなんですよ。

大阪で国字式を指導していた山根祐之も、ここがよくわからなかったと言っておりました。

**編集長** 管理人が挫折をしたのも無理がありませんね。

**管理人** 広島市の「国字速記学塾」に通学をしていれば、挫折しなかったと思います。

**編集長** なぜ、寿光式の通信教育を受講したんですか。

**管理人** 高校2年生のときに各方式の教育機関に資料を請求したことがあるんです。その中に国字式の資料もあったんです。

高校時代に早稲田式、中根式の通信教育を修了していたので、ついでにとっては失礼な言い方になりますが、寿光式も修了しようと思ったからです。高校卒業後、上京してから中根速記学校の入学式（4月15日）まで1カ月間あったんです。

**編集長** 随分、無謀なことをするんですね。

**管理人** 私は、速記のことには何でも首を突っ込むのが大好きなんですよ。

若気の至りとでも言うのでしょうかね。

それでも添削は1回だけ提出をしました。

また、電話で古久保ハルミ（国字常弘・寿光の奥さん）と質問を兼ねて国字式と山根式について1時間近くお話したことがあります。

速記科学研究会でも、毛利式の指導者をお願いをして4時間ほど説明を聞きましたが、よくわかりませんでした。線に対する感覚が違うんでしょうね。

**編集長** 速記科学研究会では、他の方式も勉強するんですか。

**管理人** 私が記憶しているだけでも、橋詰幸一から山根式を丸1日説明を聞きましたし、関東地区の速記科学研究会では、伊藤徳次郎から4回に分けて松崎式の説明を聞いたことがあります。

さて、本題に戻ります。

昭和18年には毎日式、牧式タイプ速記法があります。英文タイプを利用したものです。







昭和19年には酒井董（ただし）式、ソクタイプなどがあります。毎日式は毎日新聞社で新聞速記者用に研究されたものであり、基本文字も改良されております。

戦後になって発表された方式には、昭和21年にはカナモジカイ式、米田式が発表されました。米田式は熊崎式の系統を引くものです。

昭和23年には木村式（?）、田鎖67年式があります。

田鎖67年式の方は、田鎖一によって、51年式→60年式→67年式と改良されています。51年式になってからは田鎖式は単画化されていきます。複画派のイメージはありません。

昭和24年には中根24年式、新熊崎（森沢）式があります。中根24式は石村善左の方式であり、現在の石村式の前身です。

新熊崎（森沢）式は、昭和2年のものは、ウ列のク 、ヌ 、フ 、ム   
、ル  が改良されております。この符号は早稲田式の符号を使ったものと思われる。

昭和24年には参議院速記者養成所では同時期に複画派と単画派の方式を指導しております。単画派は畑田明のものであり、昭和25年からは山田到の折衷派を指導しております。

昭和25年には相賀式（?）、イトウ式があり、イトウ式はカナ速記と思っていたら、単画派の方式でした。

昭和26年には山根式、15字法ローマ字式、島田式、島田カナ式、26年式があります。

26年式は、中根24年式を発展させたものであり、26年式＝石村式となります。

山根式は国字式を改良した方式です。

島田式は関西大学の学生・島田克之のものであり、中根式と国字式の系統と思われる。

昭和27年には参議院式として、先の畑田明の単画派が採用されましたが、後に参議院速記者養成所では折衷派の山田到の方式に改良を加えた「統一式」が指導されております。

昭和28年には縦書き速記の三村式と長商式があります。

長商式の正式な名称は「長崎商業」の略です。中根式の系統ですが、中根24年式と衆議院式の影響を受けております。

三村式は日下部式以来の縦書き速記です。三村式は線が複雑過ぎて書ける人は三村侑弘のほか1人が昭和58年の「速記者名鑑」に掲載されております。

昭和29年には日速研式、早稲田系無名があります。

早稲田系無名は佐竹康平（やすへい）が早稲田式を簡略化した方式です。佐竹式として発表されたのは昭和31年1月です。

日速研式は、早稲田式と早稲田系無名として発表される前（佐竹案）のものを研究したものです。日速研は「日本速記研究所」の略称です。

昭和30年には標準式があります。標準式は衆議院速記者養成所所長・西来路秀男のカナ速記です。文字式とも言います。

昭和32年には伊東ひらがな式、別名・ひらがな式とも言います。

昭和33年には中根正雄の中根式即席速記法があります。後に簡易速記法、最近ではスピード・メモ法と呼んでおります。この方式はひらがなとカタカナを応用した方式であり、省略法も中根式の省略法を応用しております。

昭和33年には田鎖76年式があります。この方式は田鎖一の研究を長男の源一が受け継いだ方式です。

昭和37年には牧野式があります。

昭和38年ごろにはユニ式が発表されておりますが、ユニ式は日速研式と同じものです。日本ユニ式とも言います。

昭和39年には植岡式と高槻式があります。植岡式はカナ速記ですが、かなり単純化されていて、符号式とは大差がありません。

高槻式は高槻義信が衆議院式を研究したものです。

昭和40年には小谷式の前身である小谷65年案があります。

小谷式はS V S D（Same Vowel Same Drection）同列同方向という意味です。同列同方向で基本文字が構成されております。

つまり同列の音（同母音）が同方向の線（5方向3種線）で構成されております。中根式以来の画期的な方式です。現在は「V式」と呼ばれております。

昭和42年には中谷式、中村優里のコクサイ式があります。

コクサイ式は日速研式の系統であり、列を入れかえております。

昭和43年には小谷68年案があり、小谷65年案をさらに研究した方式です。

昭和44年には森卓明の「現代国語表象速記法」があります。この方式は中根式を高度に発展させたものであり、理論的にも内容的にもかなり高度な研究です。この方式は超中根式→中根式表象法→現代国語表象速記法というように、森卓明の長年にわたる研究の成果でもあります。

昭和48年には石村善左が新しく石村式を発表しております。石村式の発達過程をたどると、中根24年式→26年式（石村式）→（1957年型）→（1964年型）→（1967年型）→（1973年型）→（1988年型）→（1990年型）となります。

昭和50年9月には小谷征勝が正式に小谷式を発表しております。

昭和55年には中田知（とも）の深堀カナ宇宙式があります。深堀式を改良したもの

です。カナ速記と言われておりますが、内容を見ると符号式とほとんど変わりません。昭和57年には丸子式があります。

丸子式は倉嶋宏が熊崎式を独習中に衆議院式の符号に興味を感じて独自に研究したものです。昭和57年8月22日の速記科学研究会で西来路秀男が「丸子式」と命名をしました。

衆議院式の発達過程をつけ加えると衆議院式（1939年型）→（1942年型）→（1968年型）となります。

平成3年10月には早稲田速記教育研究所から速記用のワープロ、「ステノワード」が発表されました。柴田邦博が開発しました。

本体はデスクトップ型で、キヤノンの「キヤノワードα370」を使っておりました。**編集長** 「キヤノワードα370」は、平成3年5月に発売されていますね。本体は208,000円でしたね。

**管理人** 本体は安いんですが、「ステノワード」のキーボードが高いんですよ。最初に出たのは980,000円したんです。値段が高過ぎて、余り売れなかったようですね。

平成5年2月に新しく3種類が出ました。348,000円、448,000円、548,000円です。

**編集長** どこが違うんですか。

**管理人** キーボードが一般コース用、業務コース用、速記コース用と分かれています。

**編集長** ワープロ嫌いの管理人が、ステノワードを始めたきっかけはあるんですか。

**管理人** 平成4年7月30日に、武蔵野地区を対象に武蔵野市公会堂で「ステノワード」無料講習会が2時間行われたんです。私がいた会社にも案内状が届き、社長から業務命令でいったんです。

**編集長** 管理人が選ばれた理由はあるんですか。

**管理人** 社員は他にもいましたが、私が速記をやっているのを知っていたからです。

**編集長** 速記を知っている人間の方がよくわかると思ったんでしょうね。

**管理人** 講習会が終わってから「入門体験コース」の修了証が出たんですが、私が代表で受け取ったんです。

**編集長** 何か理由があるんですか。

**管理人** メモをとるのに習慣で速記で書いてしまったんですよ。

**編集長** 方式を聞かれませんでしたか。

**管理人** 中根式だと答えました。講習会が終わってから、柴田邦博と話をしながら、50万円台ならばほしいと言いました。

**管理人** 平成6年3月にパソコン（PC-98版）用のキーボードが238,000円で発売されました。私の速記仲間で購入した人が2人おります。

このほかにも方式はありますが、年代のわからないもの、創案者のわからないもの、系統のわからないものがあります。

大正7年に貴族院速記練習所が開所されてから田鎖系の方式が指導されていましたが、安田勝蔵によって安田式が指導されました。

大正7年に衆議院速記者養成所が開所されてから田鎖系の方式が指導されていましたが、友野式、森田式が指導されました。西来路秀男の衆議院標準式からは、衆議院式と呼ばれるようになりました。

また、昭和27年の日本速記70周年の速記者名鑑には方式名が貴練、衆養、参養、としか掲載されておりません。昭和37年の日本速記80周年の速記者名鑑には貴族院式、衆議院式、参議院式と掲載されております。

**編集長** それでは、簡単に速記方式の名前だけ挙げてください。

**管理人** わかりやすく50音順にしましょう。

相賀式、朝日新聞講習所式=松原式、荒浪式、浅田式、石村式、泉式、新泉式、イトウ式=イトー式、伊藤案、伊東案、伊東ひらがな式、井辺式(いんべ)、岩村式、今泉式、生稲案、植岡式=カナ文字式、植村式、植松案男、宇佐美式、大兼政式、大田式、大川式、新大川式、岡田案、鬼塚案、岡本式、新岡本式、大場案、加藤式、カナ式、カナモジカイ式、各式総合=混合式=各式混淆、ガントレット式、ガントレット式変型、蒲田式、川村式、神原案、梶案=日本速記学会案、金山・志田式、河島案、関西速記学校式、木内案、北村式=此花式、新北村式、木下案、木村式、清沢案、日下部案、熊崎式、新熊崎(牧)式、超熊崎式、新熊崎(森沢)式、黒岩案、黒田案、小泉案、国字式、コクサイ式、小島案、小谷65年案、小谷68年案、小谷式、小林案(\*縦書・罫紙使用)、佐竹式、桜井式、酒井式、酒井董式、堺式、サカイ式=酒井式、参議院(折衷)式、参議院(単画)式、新秀式、衆議院式、下島式、島田式、島田カナ式、寿光式、15字法ローマ字式、12年式、菅原案、スピードメモ法、ステノワード、選抜式、静香式、ソクタイプ、双輪式、武田式、田鎖式、新田鎖式、田鎖51年式、田鎖60年式、田鎖67年式、田鎖76年式、改良田鎖式、田鎖傍系、高槻式、宅間式、武部式、単画・早稲田式、土田式、中央式、中庸式、長商式、佃式、デーゲン式、寺谷式、所沢式、同盟式=安田式、渡島式、友野式、独自の方式、中村式、中根式、中根24年式、超中根式、中根式表象法、中谷式、那須野案、26年式=石村式、日本グレッグ式、日速研式、日本速記字会案、丹羽式、新丹羽式、日大式、野崎式、長谷川案、長谷川式、林案、林甕臣式、ひらがな式、標準式=文字式、富士式、福井式、深堀式、深堀カナ宇宙式、藤塚式、藤木式、邦語速記士養成所式=佃式、松山式、松崎式、新松崎式、松原式、毎日式、丸山式、牧田案、牧野式、丸子式、牧式=超熊崎式、新牧式、牧タイプ式、三村式、水本(元)式、三浦式、南式、宮本式、村上案、毛利式、森田式、森山式、新森山式、森式=現代国語表象法、森本案、山根式、安田式、山口市、矢野案、ユニ式=日速研式=日本ユニ式、横山案、吉原式、米田式、米田(同志社大学)式、吉永案、4年式、吉村式、ローマ字式、早稲田式、早稲田系無名、若林式、?式などが、いろいろな文献等で判明をしております。

**編集長** 随分あるんですね。

**管理人** 以上のように速記方式を調査してみましたが、速記文字の実態がわからないものが多いんですよ。特に明治時代の速記方式については田鎖式の系統かどうか判断がつかない方式があります。